

平成28年度 教育事業 再会，海からのメッセージ

～仲間との再会，そして，これからの飛躍を誓い合おう！～

- 1 趣 旨 「海からのメッセージ」を振り返り，それぞれの成長を確かめ合うとともに，絆をさらに深め，新たな目標に向けてのスタートの機会とする。
- 2 期 日 平成29年1月7日（土）～1月8日（日）
- 3 参加対象 平成28年度海からのメッセージ参加者
及びボランティア
- 4 参加者 23人（小学生14人 中学生8人 高校生1人）
- 5 指導者 国立大隅青少年自然の家職員
ボランティア5人
- 6 日 程



1日目（1月7日）		2日目（1月8日）	
10:00	受付	6:00	起床・清掃
10:20	再会のつどい	7:00	朝のつどい
11:00	【夏の活動を振り返ろう】 「佐多岬」へ（バス移動）	7:30	退所点検・荷物移動
16:00	<交流活動①>野外炊飯「カレー」 ～協力して料理しよう～	8:00	朝食
19:00	<交流活動②>スポーツクライミング ～スポーツクライミングに挑戦しよう～	9:30	<クラフト活動>「フォトフレーム」 ～思い出を形にしよう～
20:30	入浴・自由	11:00	スライドショー鑑賞・まとめ
22:00	消灯・就寝	12:00	昼食
		13:00	感想発表・アンケート
		14:00	別れのつどい
		14:20	解散 ★自然の家本館

7 事業運営について

- (1) 実際に夏に活動した場を訪れたり，その時の様子をまとめたスライドショーを視聴したりして，「海からのメッセージ」をしっかりと振り返るようにした。また，楽しく体験活動をするだけでなく，夏の活動の振り返りや今後の生活に対する目標ができるように，一人一人の発表の場の設定を行った。
- (2) 各活動のねらいに応じて，個人での活動，班での活動，全体の交流というように活動形態を工夫し，全体の流れがスムーズに進むようにした。
- (3) 野外炊飯やクラフト活動など，「海からのメッセージ」では実施できなかったプログラムを企画することで，なお一層，自然体験活動ができるように工夫した。



8 事業の実際

- (1) 夏の活動を振り返るために，バスで移動しながらカヌーで漕いだ海やみんなで必死に歩いた道を見て回った。最後は，

ゴールの佐多岬近くまで行った。参加者からは、「ここがきつかった」とか「ここで、みんなで歌を歌いながら歩いた」といった言葉が聞こえてきた。実際に活動した場所を訪問することで、一気に夏の活動を振り返ることができた。

(2) 交流活動①の野外炊飯は、班内で仕事分担をし、協力して調理することができた。特に班編制を夏と同じにしたので、息のあったスムーズな活動展開となった。できあがった夕食を楽しそうに食べる姿が印象的だった。

(3) 交流活動②では、スポーツクライミングを実施した。参加者全員が最終到達点を目指し、夏に鍛えたチャレンジ精神で活動した。途中であきらめそうになると、周りから「がんばれ」「まだできる」といった声援があがり、さらに挑戦する姿も見られた。夏にみんなで支え合った雰囲気が見られた場面だった。

(4) クラフト活動は、夏の思い出やみんなの写真を入れるフォトフレーム作りを行った。難しいところは、協力したり、教え合ったりしながら和やかな雰囲気の中活動できた。できあがったフォトフレームに最後は、貝殻やビーチグラスを付けて夏を思い出す作品になった。

(5) まとめ・感想発表では、夏の活動をまとめたスライドショーを鑑賞し、前日に引き続き再び振り返る場面を設定した。その後、夏の思い出や今後の目標など全員が発表した。「辛いときや悩んだときは、海を見て夏の活動やみんなのことを思い出す。そうすると元気が出てくる」「夏の活動後、迷っていた生徒会役員への立候補を決め、生徒会役員になった。これから学校のために自分のできることをがんばっていきたい」などといった言葉が聞かれた。

9 参加者の感想

- 仲間と久しぶりに会えて、また夏に戻ったような感じだった。2日間とても楽しい時間を過ごすことができた。
- 仲間との絆をさらに深めていくことができた。
- とても楽しくて、またみんなと会いたいと思った。

10 成果

- 「海からのメッセージ」の活動を通して、所属感や連帯感をもった仲間との「再会」は、なお一層の絆やつながりを深めていくとてもよい機会であり、意義深い事業となった。

